

# 原子核パート役職選定に関する規約 (2005/8/7承認)

以下の内容は、2005年8月7日に行われた原子核パート総会にて審議し、得られた承認を元に改正、もしくは新たに作られた原子核パート役職選定に関するローテーションルール及び規約です。

文責：水山 一仁 (2005年度パート準備校 新潟大学)

ローテーションルール改正、及び規約作成の基本的な考え方は以下の通りです。

- 準備校の仕事は大半(当日以外)は少人数でできる仕事なので人数の条件を緩和する
- パートセンター校に関しても、ローテーションルールをつくり、なるべく多くの大学がローテーションに入るようにする。
- 役職を含む全ての参加者がいつでも運営に携われるよう情報の共有を図る意味で重要な決定事項は原子核パート HP に公開することを義務づける。

以下において、前年度・本年度・次年度とは、一番最近行われた夏の学校の年度を「前年度」とします。

## — 原子核パート準備校ローテーションルール (改正版) —

—— パート準備校になる条件 ——

- 準備校を決める際の「実働稼働人数」の定義は、「現在の D 1 の人数 + ドクターに進まれる M 2 の人数」とする。
- 準備校のローテーションルールの人数制限を最低実働人数を 3 人とする。  
ただし、理論の院生は 2 人以上。今まで通り、実験の研究室は 2 人と数える。

— つまりローテーションからはずれる条件は

- 実験の研究室がないところでは理論の院生の実働人数が 3 人を下回る場合。
- 実験の研究室があるところは理論の院生の実働人数が 2 人を下回る場合。

の状態が 3 年続くこと。 —

## — 原子核パートセンター校ローテーションルール (新規) —

—— パートセンター校になる条件 ——

- センター校を決める際の「実働稼働人数」の定義は、「現在の D 1 + ドクターにすすむ M 2 + M 1 の数」とする。
- (少人数でもできる仕事なので) 最低実働人数は 2 人とする。パート総会に参加の大学を全て加える。次年度 D1 か D2 の院生が担当するのが望ましい。実働人数を満たしていなかったり、やむを得ない事情がある場合は、ローテーションの次の候補がくりあがることにする。(そのスキップした大学は、そのままローテーションのトップにのこる。)

## — 世話人選定規約 (新規) —

- 世話人に関しては、前年度の世話人ができる限り次年度の世話人の候補者を夏の学校までに探しておき、夏の学校のパート総会で発表して承認を得る。  
基本的に、世話人は従来通り、「原子核分野から3人+ハドロン分野から3人」とする。  
(原子核とハドロンで大学がかぶっても良い)
- 世話人は三者の役職とかぶっても良い。パートセンター校、パート準備校は原則、三者の役職とかぶらないようにする。

## — 補足規約 (新規) —

- 役職者(校)は全て夏の学校パート総会で選出し、この機会にこれから共に協力しながら仕事をすすめていくパートナーとして顔をあわせておく。。。
- パート準備校およびパートセンター校の中でそれぞれ代表者(複数でもよい)を決めておき、パート準備校代表者とパートセンター校代表者が三者役職校と連絡をとる役目を担う。(sansha-ctr メーリングリスト登録)
- パートセンター校代表とパート準備校代表と世話人(6名)の計8名はパートセンター校代表者、もしくはパート準備校代表者を中心にして夏の学校までの間、連絡を取り合いながら仕事を進めて行く。
- もし準備校にハドロンもしくは原子核どちらかの院生しかいない研究室の場合、他の役職(センター校、世話人)は講師の選定に協力する。
- また、当日の運営に関しては準備校の人数が足りない場合は他の役職も協力する。

### ————— ローターションの作成方法 —————

以下の順番に沿って、本年度のローテーション、(次年度準備校の候補校を決定する優先順位表のもとのこと)、および次年度のパート準備校を決定する。パート準備校を決めるための全ての [調査] は、あらかじめ実行しておくこととする。

#### 1. 本年度の準備校ローテーション決定:

- (1-1) 本年度のパート準備校を前年度のローテーションの最後尾にまわす。
- (1-2) [調査] によりローテーションから削除される条件を満たした大学をローテーションから外す。
- (1-3) [調査] により新しくパート準備校になりえると判断される学校を、本年度のローテーションの先頭に付け加える。

これによりできたローテーションを本年度のローテーションとする。

(注: 次年度のローテーションはこれを元に作成される。)

## 2. 本年度パートセンター校ローテーションの決定：

(2-1) 本年度のパートセンター校を前年度のローテーションの最後尾にまわす。

(2-2) 本年度、新たに夏の学校に参加した大学を最後尾にまわした本年度パートセンター校の直前に加える。

※注意!：この条項は準備校ローテーションと重複を避けるために新規の大学をあえてローテーションの後半に回すことにした。(適切であるという保証はないのでセンター校の判断でフレキシブルに。)

(2-3) 3年連続院生不在(もしくは夏の学校不参加)の大学をローテーションから外す。

## 3. 「調査」について

---

### [調査]

目的 : ローテーション拡大をはかる。

候補校が次年度のパート準備校、センター校となり得るかの情報を得る。

候補校の中での話し合いを円滑にするための情報を得る。

対象校 : センター校ローテーションに入っている大学。

(センター校ローテーションは基本的に原子核パート参加のほぼ全ての大学のはず)

調査項目 : 本年度の D1、D に残る M2、M1 の人数。理論/実験。

---

- これらの調査はパートセンター校の指示のもと各大学単位で行い、研究室単位では行わないこととする。(研究室単位だと、パートセンター校の負担が大きくなるので。)
- センター校はローテーションに含まれる大学がローテーションから削除される条件を満たすかどうかという情報だけは毎年残す。(それ以外の情報についてはセンター校に任せる。)

### ———— センター校の役目 ————

1. 各調査を該当校に打診する。(人数が確定する4月以降)
2. 本年度のローテーション(準備校、センター校)を作成する。
3. 候補校を決定する。
4. 調査結果を yonupa-ml 及び原子核パート HP で公開する。
5. 候補校にも直接メールで調査結果を報告し話し合いの促進を行う。
6. 今までの調査結果と本年度のローテーションを次年度のセンター校に引き継ぐ。
7. パート総会までに次年度世話人を選定するように世話人に促す。  
(研究会プログラムが決定した後の7月中でよい。この役割は準備校がおっても良い。)

## 付録（運用例）

### [準備校ローテーションに関して]

1. 本年度の準備校ローテーションの決定について例を示す。前年度のローテーションを  
H大 - A大 - B大 - C大 - D大 - E大 - F大 - G大

とし、前年度パート準備校はH大とする。B大は前々年度から3年連続、ローテーションから削除される条件を満たしたとする。また、[調査]によって新たにX大がパート準備校としての条件を満たしたとする。

(1-1) 前年度のパート準備校H大をローテーションの最後尾につける。

A大 - B大 - C大 - D大 - E大 - F大 - G大 - H大

(1-2) 3年連続、ローテーションから削除される条件を満たしたB大を削除する。

A大 - C大 - D大 - E大 - F大 - G大 - H大

(1-3) [調査]によって、新たに準備校の条件を満たしたX大をローテーションの最初につける。

X大 - A大 - C大 - D大 - E大 - F大 - G大 - H大

これを本年度のローテーションとする。

2. 次年度のパート準備校の決定について例を示す。A大が次年度の他の役職校に就いているとする。また、C大はパート準備校になる条件を満たしていないとする。(ただし条件を満たしていない期間が3年未満)

(2-1) この結果、X大、D大、E大が本年度の候補校とする。

(2-2) 候補校X大、D大、E大は調査結果を踏まえて話し合いを行い、パート準備校を決める。話し合いの結果はパートセンター校に報告する。

(2-3) 次年度パート準備校がD大となった場合、次年度の暫定的なローテーションは

X大 - A大 - C大 - E大 - F大 - G大 - H大 - D大

となる。((1-1)適用。)

## [センター校ローテーションに関して]

1. 本年度のセンター校ローテーションの決定について例を示す。前年度のローテーションを  
D大 - E大 - F大 - G大 - H大 - A大 - B大 - C大 - I大 - J大 - K大

とし、前年度パートセンター校はD大とする。B大は前々年度から3年連続、院生が不在(もしくは夏の学校不参加)だったとする。前年度パート総会で新たに参加した大学をX大とする。

- (1-1) 前年度のパートセンター校D大をローテーションの最後尾につける。

E大 - F大 - G大 - H大 - A大 - B大 - C大 - I大 - J大 - K大 - D大

- (1-2) X大を前年度センター校の直前につける。

E大 - F大 - G大 - H大 - A大 - B大 - C大 - I大 - J大 - K大 - X大 - D大

- (1-3) 3年連続、院生が不在(もしくは夏の学校不参加)のB大を削除する。

E大 - F大 - G大 - H大 - A大 - C大 - I大 - J大 - K大 - X大 - D大

これを本年度のローテーションとする。

2. 次年度のパートセンター校の決定について例を示す。

- case.1 E大が実働人数を満たしていて、かつ他の役職と重複が無い場合

→ 次年度パートセンター校はE大

次年度暫定ローテーションは

F大 - G大 - H大 - A大 - C大 - I大 - J大 - K大 - X大 - D大 - E大

((1-1) 適用。)

- case.2 E大が次年度他の役職と重複、もしくは実働人数を満たしていない場合。(またはその他やむをえない事情がある場合)

→ 次年度パートセンター校はF大

次年度暫定ローテーションは

E大 - G大 - H大 - A大 - C大 - I大 - J大 - K大 - X大 - D大 - F大

((1-1) 適用。スキップしたE大は先頭に据え置き。)

---

### あとがき

パート総会でずいぶん活発な議論を通して承認されたこの新規約ですが、年度ごとに状況は変化し続け、問題も発生していくことが考えられます。毎年、パート総会で問題点を確認し、少しずつ修正して行って下さい。

---